



背景

昭和50年（1975）8月17日、台風5号は宿毛市付近に上陸し、その後伊予灘を経て、山口県から日本海に抜けました。この台風が通過した17日には高知県中部の山間部では豪雨となり、17時までの1時間にいの町で93mmを観測しました。このため、仁淀川は大洪水となり、山崩れや土石流も発生して大災害となりました。この話は、洪水時に土石流に遭遇した人の体験談です。

アクセス

災害の発生したいの町

- いの町役場
- いの町1700-1
- 緯度経度 北緯33度32分53秒, 東経133度25分41秒



この話は、昭和五〇年（一九七五）に土石流に遭遇した人の体験談です。

八月一七日の午後、裏の加茂山から土石流が発生し、自宅を鉄砲水が襲いました。わが家は山の裾野すそのの比較的高い位置にありましたが、この鉄砲水により床上二〇センチメートル程度浸水しました。この時、くみ取り式の便所から異常な臭気がして、またプロパンガスのボンベが家に当たる音がした後、突然家の中に大量の水が入ってきました。この水の勢いは激しく、あっという間に一階が浸水し、母親と妹と急いで二階へと避難しました。あまりに突然の出来事に、当時小学校三年でしたが、言いようもない不安と恐怖を感じたことを今でも覚えています。

二階に避難してからも雨は激しく降り続き、階段に上がってくる水かさがだんだん増してきたことから、近くの小学校へ避難することになりました。しかし、時既に遅く、小学校へ向かう町道には濁流が流れ、横断することができなくなっていたので、やむを得ず、近くにあった四階建てのビルに避難することになりました。そこには近所の人も避難してきており、多くの人が不安な夜を過ごしました。

次の日、自宅に戻ると、一階は泥で埋まっており、二階での不自由な生活を余儀なくされました。この土石流は家の裏の小さな谷筋で発生しており、裏の住宅地に水が溜まったことから、水を吐かすためブロック塀を壊したことでより水が流入してきたことが後になって分かりました。

この豪雨からは、早めに避難することと、土石流や鉄砲水などの突然の災害に備えることの大切さを学び、今も心に刻んでいます。